

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(ブログ「石油と中東」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー:0541

(注)本稿は 2021 年 8 月 5 日から 9 月 6 日まで 8 回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2021.9.8

前田 高行

コロナ禍は乗り越えたが岐路に立つ国際石油企業:2021 年 4-6 月期業績速報

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 純利益	2
2. 売上高	3
3. 売上高利益率	4
4. 設備投資	5
5. キャッシュ・フロー	7

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、bp、TotalEnergies 及び Chevron)の4-6月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益、売上高利益率、設備投資、キャッシュフロー及び石油・天然ガス生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2021/0730_ExxonMobil-earns-4.7-billion-in-second-quarter-2021

Shell:

<https://www.shell.com/investors/results-and-reporting/quarterly-results/2021/q2-2021.html>

bp:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/second-quarter-2021-results.html>

TotalEnergies:

<https://totalenergies.com/media/news/press-releases/second-quarter-2021-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/investors/press-releases>

なお過去の四半期業績及び2010年から2020年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

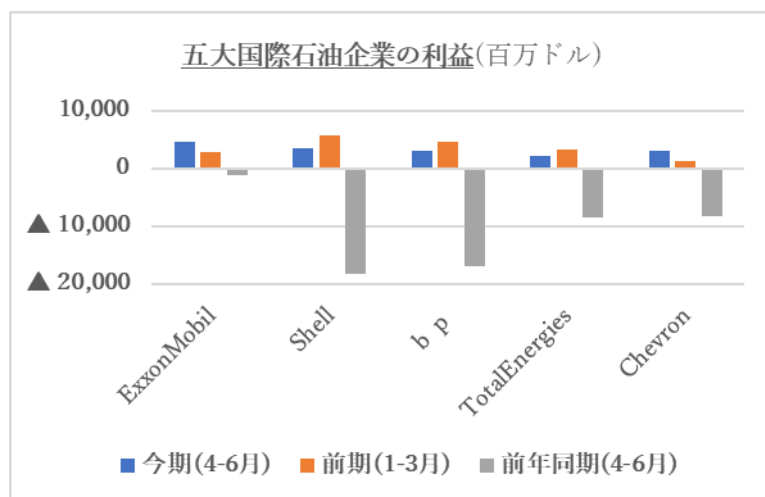
<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>

<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>

1. 純利益¹

(前期に続き全社で利益計上、最高は ExxonMobil の47億ドル！)

(1) 当期利益



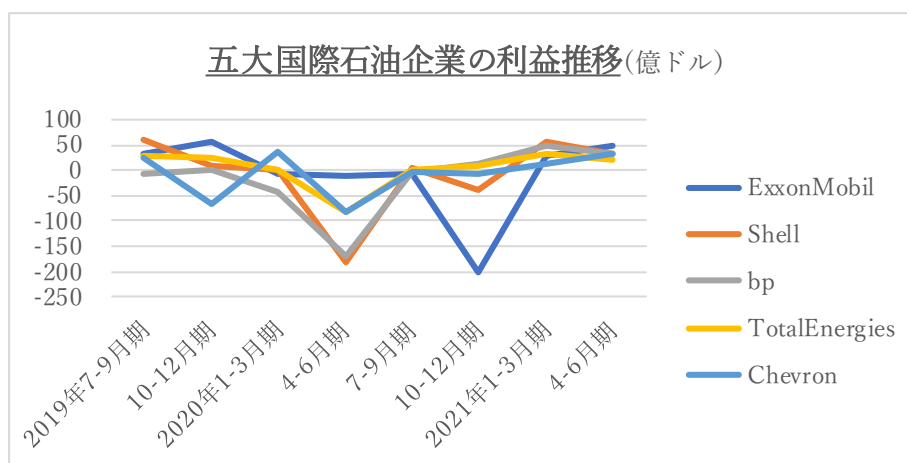
国際石油企業(以下 IOC)5社の4-6月期は1-3月期に続きいずれも利益を計上している。後述するが前年同期の20年4-6月期は全社が赤字であり、中でも Shell と bp の赤字幅は記録的であったことに比べ各社ともコロナ禍の最悪の状況を脱したものと見られる。

5社の中で利益が最も多かったのは ExxonMobil の47億ドルであり、

次いで Shell(34億ドル)、bp(31.1億ドル)、Chevron(30.8億ドル)が30億ドル超でならんでいる。5社の中で最も利益が低かったのは TotalEnergies の22億ドルであり、ExxonMobil の半分以下にとどまっている。

(悪夢の2020年業績、ようやく安定した今年上半期！)

(2) 2019年7-9月期以降今期までの利益の推移



ここでは過去2年間、すなわちコロナ禍発生以前の2019年7-9月期から今期(2021年4-6月期)までの利益の推移を追ってみる。2019年7-9月期は Shell が59億ドルの利益を計上、ExxonMobil、

TotalEnergies 及び Chevron3社の利益は30億ドル前後であった(bp のみ7億ドルの赤字)。

ところが同年10-12月期に Chevron が66億ドルの大幅な赤字決算になったのを皮切りに、202

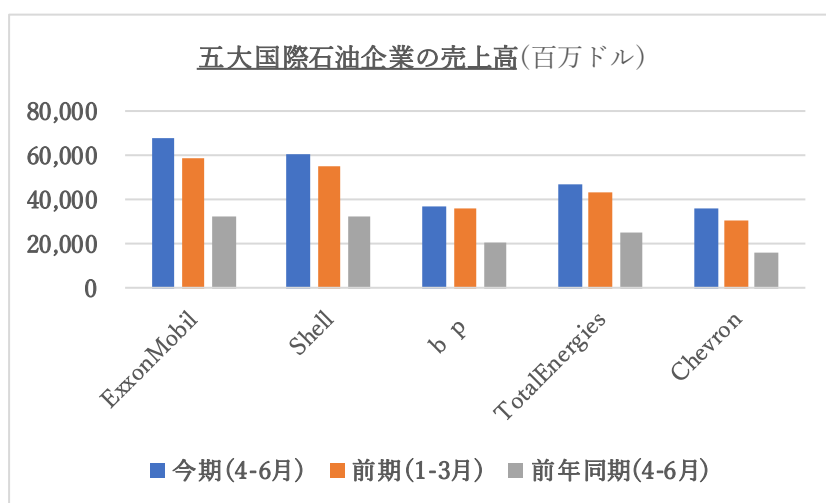
0年に入ると1-3月期には bp が44億ドルの欠損を記録した。そして4-6月期には全社が赤字決算となった。中でも Shell は▲181億ドル、bp は▲168億ドルの巨額の赤字となり、Total、Chevron も共に▲80億ドル強の赤字決算となった。この時比較的マイナス幅の小さかったExxonMobilも10-12月期には▲201億ドルと言う同社の歴史上かつてない赤字を経験したのであった。

今年に入り米国および中国の経済が回復軌道に乗ると共に、国際石油企業各社の業績も急回復し、1-3月期は全社がプラスに転じた。そして4-6月期もその傾向が継続し、ExxonMobil の47億ドルの黒字を筆頭に各社はいずれも20億ドル以上の利益を確保している。

2. 売上高²

(全社が前年同期の2倍前後の増収！)

(1) 当期売上高



2021年4-6月期の売上高は5社の中ではExxonMobilが677億ドルと最も多くShellが605億ドルで続いている。TotalEnergiesはExxonMobilより200億ドル強少ない470億ドルであり、bp及びChevronは約300億ドル少なく、bpが376億ドル、Chevronは361

億ドルであった。

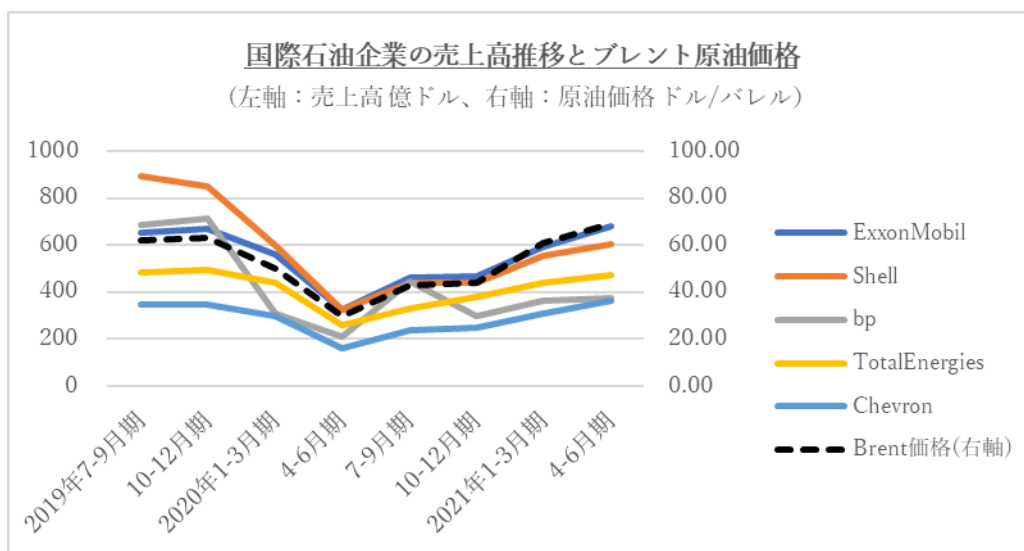
ExxonMobilの売上高を100とした場合、Shellは89、TotalEnergies69、bp56、Chevron53であり、Chevronの売上高はExxonMobilのほぼ半分である。前項で触れた通り利益面ではExxonMobil、Shell、Chevron、bp、TotalEnergiesの順である。ExxonMobil及びShellは利益、売上共1、2位を占めているが、売り上げ規模3位のTotalEnergiesは利益面では5社中の最下位である。

前年同期(2020年4-6月期)と比較すると、Chevronは2.3倍、ExxonMobilは2.1倍であり、その他の3社も1.8倍の増収であった。

(ほぼ原油価格に連動した各社の売上高！)

(2) 2019年7-9月期以降今期までの売上高の推移

2019年7-9月期から今期(2021年4-6月期)までの売上高の推移を見ると、2019年第3四半期の売上高は895億ドルのShellを筆頭に、bpが683億ドル、ExxonMobil650億ドルと続き、TotalEnergiesは486億ドル、Chevronが348億ドルであった。



その後、2019年第4四半期から2020年第2四半期にかけて各社とも売上高が急激に減少した。2020年第2四半期は新型コロナ禍の影響で経済活動が大きく減速し、各社は販売価格及び販売量の両面で過去2年間では最も厳しい売上減少を強いられた。この期の売上高はExxonMobil、Shellが330億ドル、TotalEnergiesは260億ドル、bp210億ドル、Chevron160億ドルであり、各社押しなべて2019年7-9月期の5割乃至3割にとどまっている。

その後は各社によって多少のばらつきはあるものの、売り上げは4期連続して増収となり、今期(2021年4-6月期)はExxonMobil及びChevronは2019年7-9月期を超えており、TotalEnergiesもほぼ回復している。但しbp及びShellの売上高は6割前後の水準にとどまっている。

売上高の変動に大きな影響を与えるのが原油価格であるが、代表的な油種であるBrent原油の各四半期の平均価格を見ると以下の通りであった(価格はドル/バレル)。

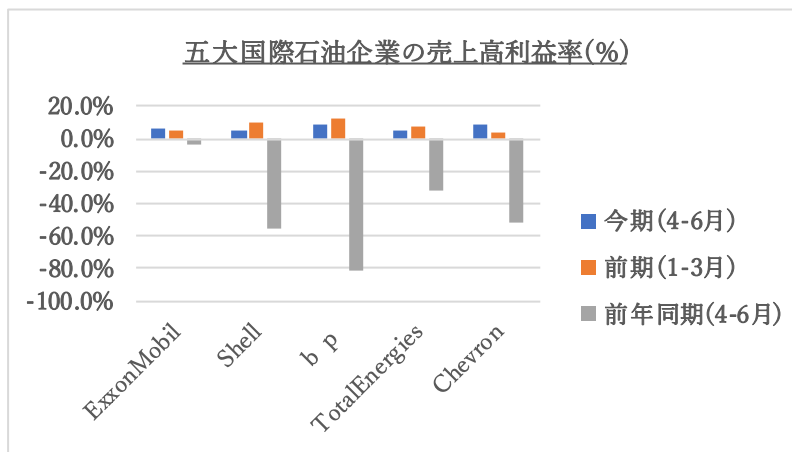
62.00ドル(‘19年7-9月期)→63.08ドル(‘19年10-12月期、前期比+1.7%)→50.06ドル(‘20年1-3月期、前期比▲20.6%)→29.55ドル(‘20年4-6月期、前期比▲41.0%)→42.94ドル(‘20年7-9月期、前期比+45.3%)→44.16ドル(‘19年10-12月期、前期比+2.8%)→61.12ドル(‘20年1-3月期、前期比+38.4%)→68.97ドル(‘21年4-6月期、前期比+12.80%)

これに対して5社の対前期比売上高の平均増減比率は、+0.6%(‘19年10-12月期)→▲25.5%(‘20年1-3月期)→▲41.6%(‘20年4-6月期)→+53.9%(‘20年7-9月期)→▲2.9%(‘19年10-12月期)→+23.5%(‘21年1-3月期)→+10.0%(‘21年4-6月期)であった。両者を比較すると全期間を通じて売上高と原油価格との相関関係が極めて高いことがわかる。

3. 売上高利益率

(今期売上高利益率は団栗の背比べ！)

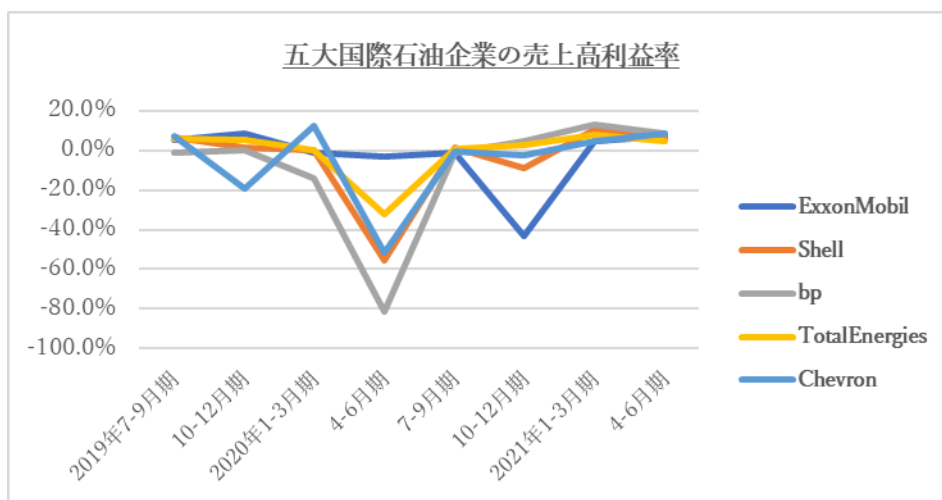
(1) 当期売上高利益率



IOC5社の今期売上高利益率はChevronが8.5%と最も高く、続いてbpが8.3%、ExxonMobil 6.9%、Shell 5.7%であり、5社の中で売上高利益率が最も低いのはTotalEnergiesの4.7%である。

(悪夢の2020年！)

(2) 2019年7-9月期以降今期までの利益率の推移



2019年7-9月期から今期(2021年4-6月期)までのIOC5社の売上高利益率の推移を見ると、2020年は各社とも大幅な下振れを経験しており悪夢の一年間であったと言えます。

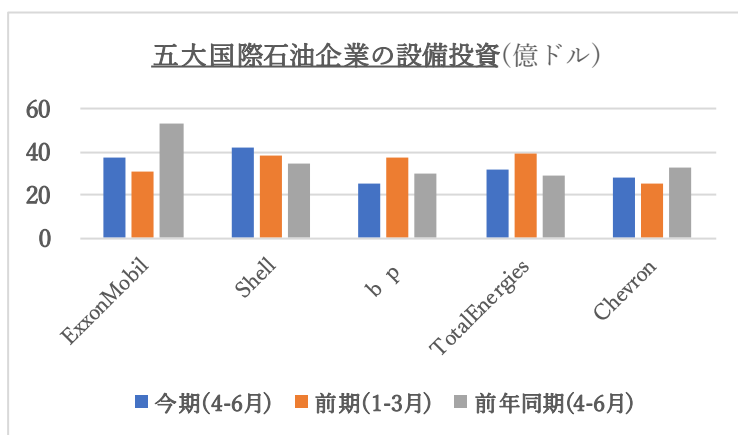
2019年7-9月期の売上高利益率はChevronの7.4%を筆頭に、Shell 6.6%、Total 5.8%、ExxonMobil 4.9%といずれもプラスの利益率で、bpのみが▲1.1%であったが、5社の格差はそれほど大きくはなかった。2019年10-12月期にChevronの利益率は▲19.1%と大幅に下落した。さらに2020年4-6月期には全社がマイナス決算となり、損失率もShell、bp及びChevronは▲50%台を記録している。比較的損失率が低かったExxonMobilも10-12月期には▲43%の大幅なマイナスを記録、昨年1年間はIOC各社いずれも厳しい決算を余儀なくされた。

2021年に入り各社とも業績が回復、1-3月期は全社の利益率がプラスとなり、この傾向は4-6月期も続いている。

4. 設備投資³

(業績回復でも慎重な設備投資！)

(1) 当期設備投資

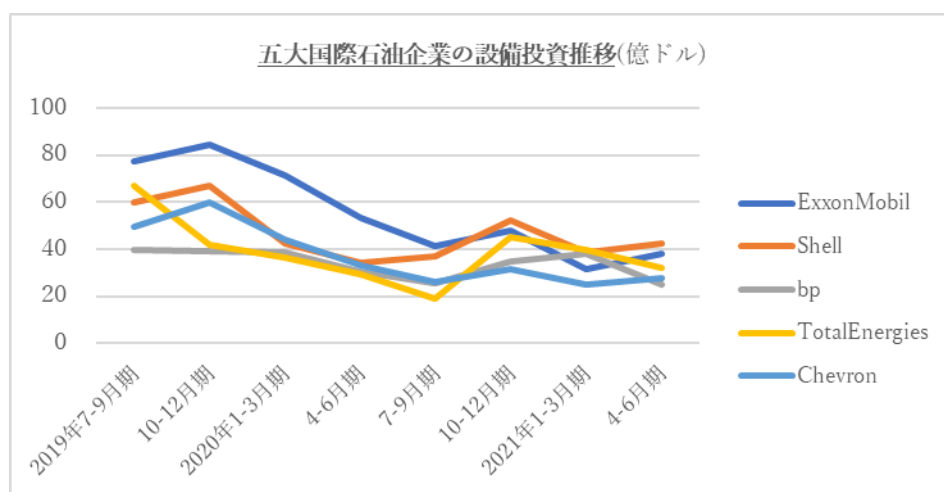


国際石油企業5社の4-6月期設備投資は、Shell が42億ドルで最も多く、これに次ぐのがExxonMobilの38億ドルである。その他の3社は TotalEnergies 32億ドル、Chevron28億ドルで、bpは5社中で最も少ない25億ドルであった。前期(1-3月期)より多かったのはExxonMobil、Chevron及びShellの3社で、bp及びTotalEnergies

は前期を下回っている。前期を上回った3社も増加幅は大きくない。各社は2期連続して利益を計上しているが設備投資には慎重である。

(2019年以降低下し続ける設備投資！)

(2)2019年7-9月期以降今期までの設備投資の推移



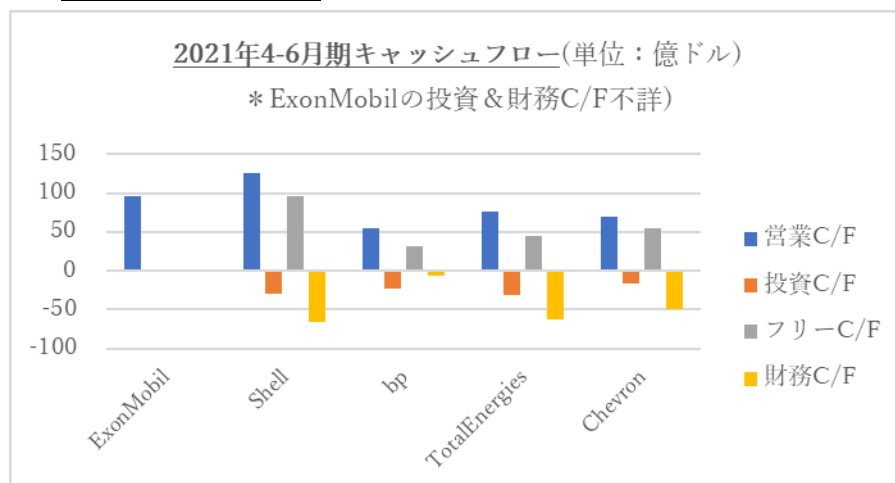
2019年7-9月期の各社の設備投資は ExxonMobil が77億ドルと最も多く、TotalEnergies 67億ドル、Shell 60億ドル、Chevron 50億ドルで最も少ないbpの設備投資は40億ドルであった。続く10-12月期にはExxonMobilの85億ドルを筆頭にShell、Chevronの順であったが、2020年に入り各社の設備投資は急減し、2020年7-9月期には各社ともほぼ半減している。その後10-12月期は少し回復し、2021年もその状態が続いている。

最新の IEA レポートは2050年までの炭酸ガス排出量ネットゼロを目標とし、化石燃料供給プロジェクトへの新たな投資を控えるよう提言している⁴。さらにオランダの裁判所が Shell に対して2030年までに排出量を2019年比で45%削減するよう命じており(Shell は控訴中⁵)、ExxonMobil の株主総会では環境対策を求める投資ファンドから取締役2名の選任を押し付けられる⁶など石油企業を取り巻く環境は厳しさを増している。各社とも景気の回復を見越して石油・天然ガスの開発投資に注力してきた従来のような設備投資方針の見直しを迫られている。

5. キャッシュフロー⁷

(フリーキャッシュの多い Shell !)

(1) 当期キャッシュフロー



(注) ExxonMobil の4-6月期決算書類では投資 C/F 及び財務 C/F が不明。

(1-1) 営業 C/F⁸

今期の5社の営業 C/F は Shell が126億ドルで最も多く、次いで ExxonMobil が97億ドル、TotalEnergies 及び Chevron がそれぞれ76億ドル、70億ドルであり、bpは最も少ない54億ドルにとどまっている。

(1-2) 投資 C/F⁹

ExxonMobil を除く投資 C/F によるキャッシュの流出は TotalEnergies が最も多く31億ドルであった。これに次ぐのが Shell の29億ドルであり、bp22億ドル、Chevron16億ドルであった。

(1-3) フリーC/F

営業 C/F から投資 C/F を差し引いたフリーC/Fを見ると、Shell が97億ドルで最も多く、これに次ぐのは Chevron の54億ドルである。TotalEnergies 及びbpはそれぞれ44億ドルと32億ドルであった。ShellのフリーC/Fはbpの3倍である。

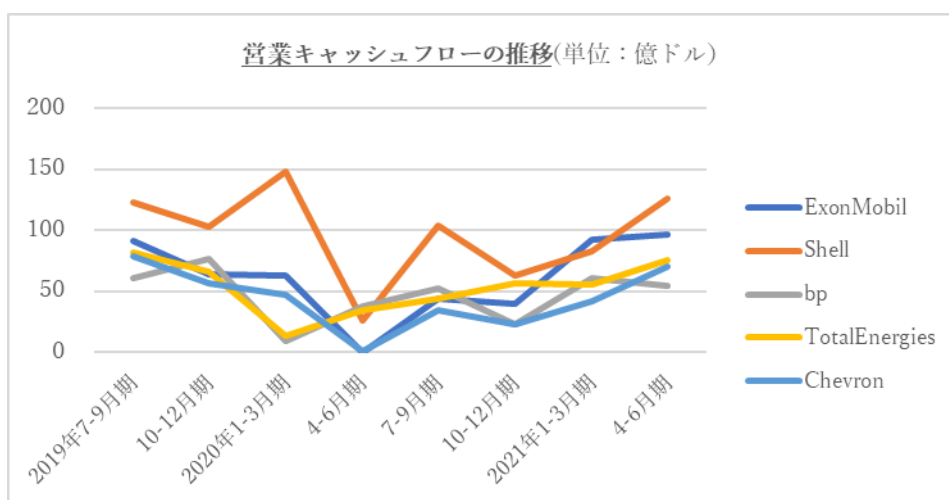
(1-4) 財務 C/F¹⁰

(ExxonMobilを除く)4社の財務 C/F 収支はShellとTotalEnergiesが66億ドルと63億ドルで並んでおり、Chevronは49億ドル、bpは最も少ない6億ドルであった。財務 C/F は借入金の支払い金利、借入金の返済あるいは新規借入で構成され、通常、投資が少ない時は既存借入金を返済し、新規借入を控えて財務の健全化を図ろうとすることが多い。

(急変動した2020年のキャッシュ・フロー！)

(2) 2019年7-9月期以降今期までのキャッシュフローの推移

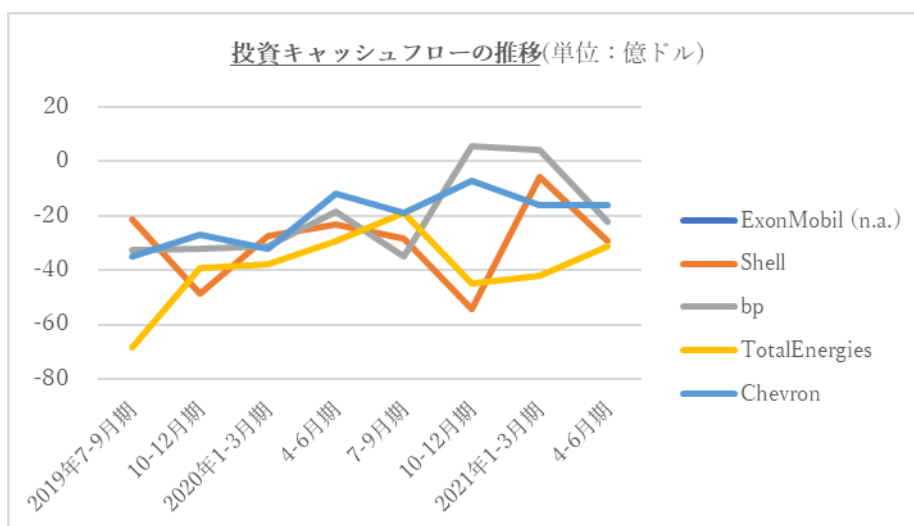
(2-1) 営業 C/F



2019年7－9月期の5社の営業 C/F は Shell が123億ドルで最も多く、次いで ExxonMobil が91億ドル、TotalEnergies 及び Chevron がそれぞれ82億ドル及び79億ドルであり、bpは最も少ない61億ドルであった。2020年に入ると各社の営業 C/F は激減し、同年1－3月期に bp 及び TotalEnergies は10億ドル強、続く4－6月期には Chevron, ExxonMobil がほぼゼロ、Shellが26億ドルと5社全ての営業C/Fが大きく落ち込んだ。

その後、同年後半には復調の兆しが見られ、2021年に入ると増加のテンポが早まり、4－6月期には2019年7－9月期の水準まで戻っている。

(2-2) 投資 C/F

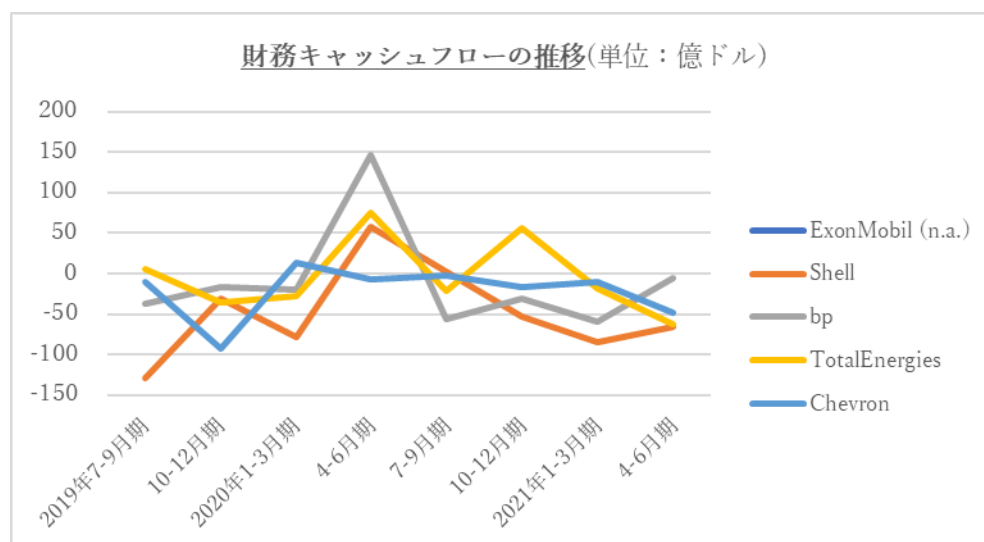


2019年7－9月期の ExxonMobil を除く4社の投資 C/F が最も多かったのは TotalEnergies の▲68億ドルであり、以下は Chevron(▲35億ドル)、bp(▲33億ドル)、Shell(▲21億ドル)であった。翌10－12月期はShellが最も多く(▲49億ドル)、Chevron(▲27億ドル)が4社の中で金額が最も少なかった。

2020年の7－9月期までの3四半期は各社とも大きな変化は無かったが、同年10－12月期は ShellとTotalEnergiesが大きく増加した(Shell▲28億ドル→▲54億ドル、TotalEnergies▲19億

ドル→▲45億ドル)一方、bp 及び Chevron は大きく減少しており、特にbpは投資額が純減(▲35億ドル→+6億ドル)となった。同社の投資 C/F は2020年1-3月期も純減(+4億ドル)であった。今期(4-6月期)は4社の投資 C/F は▲20~30億ドルに並んでいる。過去2年間を通じて TotalEnergies が一定して高い水準を維持していることが目立つ。

(2-3)財務 C/F



(ExxonMobilを除く)4社の2019年7-9月期の財務 C/F 収支はShellが▲130億ドルと際立って多い。その他3社は bp▲37億ドル、Chevron▲11億ドルであり、TotalEnergies は3社と異なり+5億ドルである。同期の新規借入額が返済額を上回ったことを示している。

このような傾向は2020年4-6月期に各社でも見られ、同期の財務 C/F は bp147億ドル、TotalEnergies75億ドル、Shell57億ドルといずれも大幅なプラスであった。2020年に入りコロナ禍が世界に蔓延、エネルギー需要が急減した結果、各社が運転資金の不足を補うため巨額の借入を行った結果である。

各社は2021年に入り先行きの見通しが多少とも明るくなったと判断したようであり、投資 C/F の大きな変動は治まりつつあるようである。

(原油・天然ガス共に ExxonMobil がトップ！)

6. 石油及び天然ガス生産量

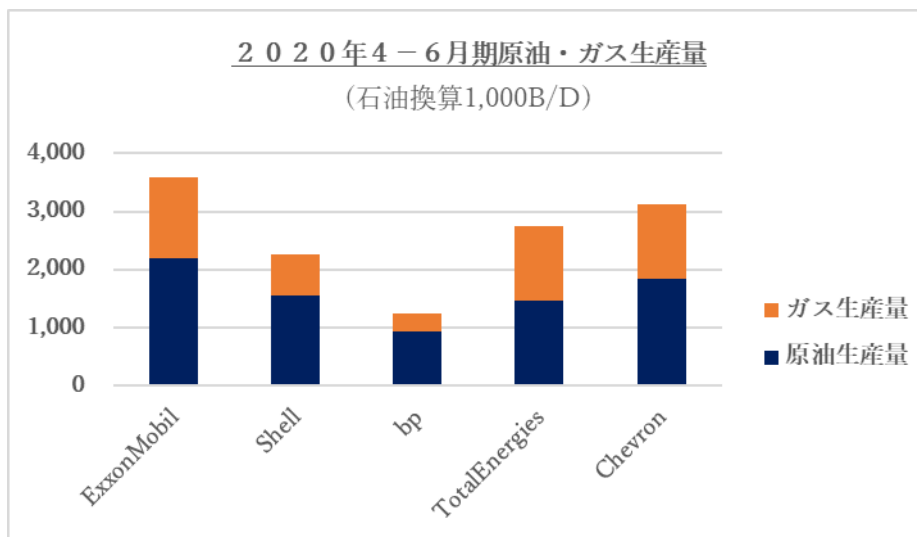
(図 <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-4-55.pdf> 参照)

(1)原油生産量¹¹

2021年4-6月期の原油生産量が最も多かったのは ExxonMobil の2, 200千 B/D であり、5社の中でただ一社2百万 B/D を超えている。ExxonMobil に次いで生産量が多いのは Chevron(1, 847千 B/D)で ExxonMobil の8割である。第3位は Shell(1, 558千 B/D)、TotalEnergies は1, 464千 B/D。bp は最も少ない938千 B/D で5社の中で唯一100万 B/D を下回っている。

(2)天然ガス生産量¹²

天然ガスの生産量が最も多いのは ExxonMobil の日産83億立方フィートで石油に換算すると1, 382千 B/D であった。2位は Chevron の77億立方フィート(石油換算1, 283千 B/D)、3位 TotalEnergies70億立方フィート(石油換算1, 279千 B/D)と続き、第4位は Shell の41億立方フィート(石油換算704千 B/D)であり、最も少ないのはbpの18億立方フィート(石油換算307千 B/D)であった。



(3)石油・天然ガス合計生産量¹³

石油と天然ガスの合計生産量が最も多いのは ExxonMobil であり石油換算で3, 582千 B/D である。2位は Chevron の3, 126千 B/D でこの2社が合計生産量3百万 B/D を超えている。3位 TotalEnergies(2, 747千 B/D)及び Shell(2, 262千 B/D)が200万 B/D 台で、5社の中で最も少ないのは BP の1, 245千 B/D であった。ExxonMobil の生産量を100とした場合、他の4社は Chevron 87、TotalEnergies 77、Shell 63、bp は35となっている。

各社の石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil は石油61%、天然ガス39%であり、その他の4社は Chevron(石油59%:天然ガス41%)、TotalEnergies(石油53%:天然ガス47%)、Shell(石油69%:天然ガス31%)、bp(石油75%:天然ガス25%)である。5社いずれも石油の比率が天然ガスを上回っているが、石油の比率が最も高いのは bp(75%)で、逆に最も低いのは TotalEnergies(53%)である。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

¹ 「純利益」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Net income attributable to ExxonMobil (U.S. GAAP)
Shell:Incom/loss attributabel to shareholders
bp:Profit (loss) for the period; Attributable to BP shareholders
TotalEnergies:Netincome (TotalEnergies share)
Chevron:Net income

² 「売上高」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Total revenues and other income
Shell:Total revenue and other income
bp:Total revenue and other income
TotalEnergies:Sales
Chevron:Sales and other operating revenues

³ 「設備投資」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Capital and Exploration Expenditures
Shell:Capital expenditure, Consolidated Statement of Cash Flow
bp:Capital expenditure
TotalEnergies:12. Net investments
Chevron:Capital & Exploratory Expenditure, Worldwide

⁴ 'Net Zero by 2050 A Roadmap for the Global Energy Sector'
<https://www.iea.org/reports/net-zero-by-2050>

⁵ 'Shell response to Dutch court ruling in case brought by Milieudefensie!'
<https://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2021/shell-response-to-dutch-court-ruling-in-case-brought-by-milieudefensie.html>

⁶ 'ExxonMobil announces preliminary results in election of directors'
https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2021/0526_ExxonMobil-announces-preliminary-results-in-election-of-directors

⁷ キャッシュ・フロー(cash flow、現金流量)とは、現金の流れを意味し、主に、企業活動や財務活動によって実際に得られた収入から、外部への支出を差し引いて手元に残る資金の流れのことをいう。欧米では古くからキャッシュ・フロー会計にもとづくキャッシュ・フロー計算書(Cash flow statement, C/F)の作成が企業に義務付けられており、日本でも 1999 年度から上場企業は財務諸表の一つとしてキャッシュ・フロー計算書を作成することが法律上義務付けられている。

キャッシュ・フローは(1)営業キャッシュ・フロー(日常的な、生産・営業活動によって稼得する現金と、それに要する現金コストの収支)、(2)投資キャッシュ・フロー(工場新設やビル建設・トラック購入などの設備投資・有価証券投資に要する現金支払いと資産売却による収入)及び(3)財務キャッシュ・フロー(財務活動による現金の収支)の3種類があり、これらの総合収支が会計期間内の現金収支であり、期首(前期末)の現金(及び現金相当物)の残高に期間内の収支を加えたものが当期末の現金(及び現金相当物)となる。(Wikipedia より)

⁸ 「営業キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Cash Flow form Operating Activities (U.S. GAAP) / Net cash provided by operating activities (U.S. GAAP)
Shell:Cash flow from operating activities
bp:Net cash provided by operating activities, Condensed group cash flow statement
TotalEnergies:Cash flow from operating activities, TotalEnergies financial statements
Chevron:Net cash provided by Operating Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁹ 「投資キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。
Shell:Cash flow from investing activities
bp:Net cash used in investing activities

TotalEnergies:Cash flow used in investing activities, TotalEnergie financial statement
Chevron:Net cash Used for Investing Activities, Summerrized Statement of Cash Flow
(Preliminary)

¹⁰「財務キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。

Shell:Cash flow from financing activities

bp:Net cash provided by (used in) financing activities

TotalEnergies:Cash flow from (used in) financing activities, Total financial statement

Chevron:Net cash provided by (Used for) Financing Activities, Summerrized Statement of
Cash Flow (Preliminary)

¹¹「原油生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Net production of crude oil, natural gas liquid, bitumen and tsynthetic oil

Shell:Liquid production available for sale

bp:Production (net of royalties), Liquids

TotalEnergies:

Chevron:Net liquid production

¹²「天然ガス生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Natural gas production available for sale

Shell:Natural gas production available for sale

bp:Production (net of royalties), Natural gas

TotalEnergies:Hydrocarbon production, Gas

Chevron:Net natural gas production, Worldwide

¹³「石油・天然ガス合計生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:

Shell:Total production in barrels of oil equivalent

bp:Production (net of royalties), Total hydrocarbons

TotalEnergies:

Chevron:Total net oil-equivalent production